

2010年度

事 業 報 告

自 2010年 4月 1日

至 2011年 3月31日

公益財団法人 正 力 厚 生 会

## 〔がん患者支援事業〕

### ＜患者団体への助成＞

#### 患者団体等への助成事業（継続）

全国のがん患者会や支援団体などで、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などができない団体を一般公募し、審査を通過した団体に活動資金を助成する事業です。全国の19団体に助成しました。助成金は、患者同士の交流を促進するためのHP更新、がんケアサロンの運営費、児童・生徒の前でがん患者が自らの体験を披露することでがん患者への理解を浸透させる「出前授業」開催に伴う諸費用などに充てられました。

### ＜医療機関への助成＞

#### 国立がん研究センター相談員養成講座（5か年事業、2010年度終了）

全国のがん診療連携拠点病院に設置が義務付けられている相談支援センターの相談員養成のため、MSW（メディカル・ソーシャル・ワーカー）や看護師を対象とした「相談支援センター相談員研修会」が随時開催されましたが、当財団は、同研修会関連費用や相談員向け教材などの制作費の一部を助成させていただきました。

#### がん研究会有明病院データベース構築（5か年事業、2010年度終了）

がんごとの治療方法や副作用、5年生存率など患者に役立つ患者診療情報のデータベース化に助成しました。このデータベースは、都内主要3病院（都立駒込病院、東京大学病院、がん研究会有明病院）における子宮頸がんにとった治療法別実態調査の結果を踏まえたもので、病院の性格・特長・提供可能な能力に関する指標（クオリティー・インディケーター）を作成、患者への公開を目標としているものです。このほか、同病院が発行する啓発用小冊子「婦人科がん手術後のリンパ浮腫について」の制作にも助成金が活用されました。情報が少ないとされるリンパ浮腫患者間の情報共有に役立てていただきました。

### ＜小冊子作成への助成＞

#### がん治療をテーマにした小冊子作成への助成事業（継続、2011年度凍結）

広島県緩和ケア支援センター・県立広島病院が「在宅緩和ケアの手引き」2万部を作成するのに対し、作成費の一部を助成しました。完成した小冊子は、全国約500のがん診療連携拠点病院に配布され、患者や家族の皆様役に役立てていただいております。

## ＜QOL(クオリティー・オブ・ライフ)向上への助成＞

### 読響ハートフルコンサート（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すため、読売日本交響楽団員を病院に派遣して弦楽四重奏などを披露しました。2010年度は、全国6か所（茨城・東京・岩手・鹿児島・新潟・広島）で開催しました。患者の皆様のほか、医療従事者の方々からも喜ばれました。